

2020年8月22日(土)

## 『グループトレーニングミーティング』

## 開会挨拶 (GTMの趣旨説明)

## 岐阜Aグループ

## ガバナー補佐 永瀬 章 様

皆さま、こんにちは。2020-21年度第2630地区岐阜Aグループのガバナー補佐を拝命いたしました岐阜北ロータリークラブの永瀬 章と申します。この一年間どうぞよろしくお願いいたします。

今年度はコロナ禍の中、岐阜AグループのGTM(グループトレーニングミーティング)、ならびに、ガバナー公式訪問合同例会をオンライン会議の形式で開催させていただきます。この会議は会員が3密を避け、一同が1か所に集合することができない現在、目の前に会員はいませんが、オンラインで多くの会員と結ばれます。会議での発言は会長、幹事、研修リーダーに限られ、他の会員には発言の機会はありませんが、会議を傍聴することで参加していただけます。

この度、岐阜Aグループとしては初めてのオンラインでの会議であります。運営に関し、不行き届きの面も多々あると思いますが、ロータリーの好意と友情でご容赦ください。なお、剣田ガバナーはオンラインの趣旨をご理解いただき、高山からオンラインでの参加です。

ガバナーは日頃より例会出席の重要性を強調しておられます。ロータリーの真髄でもある職業奉仕を学ぶ道場が例会であり、自分を磨くため、例会に出席することが大切であると仰っています。

そこで、本日のGTMにおいては、このことを念頭に置いて各クラブ会長は、『コロナ禍におけるクラブの運営』、幹事は『コロナ禍における会員増強』、そして、クラブ研修リーダーは『昨年の実績と研修の必要性について』発表願います。

本日は直接対話はできませんが、今後このようなバーチャルな世界に移行するかもしれません。有意義な一日となることを願って挨拶とさせていただきます。

## ガバナー挨拶

## 第2630地区 ガバナー 剣田 廣喜 様

今年は日本にロータリーが誕生して100周年の記念すべき年であります。日本のロータリー100周年実行委員会がクラブ運営の課題について、アンケート調査をいたしました。その結果、クラブ運営の課題は、①例会・委員会活動のマンネリ化 ②ネット対応の不十分 ③ロータリーの研修不足とクラブ内でのロータリーの研修不足、が課題の3番目に来ています。

また、国際ロータリーはロータリアンの退会が顕著になってきたということで、その原因を分析していくと、せっかく入会してもらったのに、ロータリーの良さをよく分かってもらえず、短期間で退会していかれている方が多いという事実が出てきました。

そこで、退会防止のためには、ロータリーの良さをキチンと伝えていくことが重要であるということになり、各クラブに研修リーダーを定め、研修リーダーが中心になり、会員に研修を実施していただくということになったわけです。当地区においても前年度よりクラブ研修リーダーの設置をお願いしております。近年、新会員も古くからの会員も含め、ロータリーの知識が欠如しているロータリアンが多くみられます。これは、クラブが徹底した定期研修を継続的に提供していないことに起因していると思われる。ロータリーについての知識を持った良い指導者のいるクラブでは、価値あるプロジェクトに多くの会員が関わり、ロータリアンとしての充実感を体験して、質の高い例会を実践しているの、結果として会員を育て、会員基盤を維持し、退会防止につながっています。

クラブ運営はロータリーの根幹です。例会はロータリーの魅力、ロータリアンの成長の場をもたらす



ところであります。そのためには、クラブの親睦と学び研修が大きな要素となります。

そこで、今年度、研修リーダーを中心にグループ研修していこうというのが、GTM（グループ・トレーニング・ミーティング）の趣旨であります。

ただ、今年はコロナ禍により、例会が数カ月休会を余儀なくされ、いまだに、フェース TO フェースの例会が開催できない現状であります。クラブ研修リーダーの皆様も活動できない状態だと思います。当初の趣旨のようにできないと思いますが、理念、目的を共にする仲間が集まって学ぶことは大変意義あることと考えます。

最近ではロータリー活動が多面的になり、新しい会員には、ロータリーとは何であるか、余程よく説明しないとロータリーが何であるかわからないまま、あるいは終わってしまうことにもなりかねないと危惧しています。単に定款・細則やロータリー用語の解説に終始することなく、会員自身がロータリーに興味を持ち、自らがもっとロータリーを知ろうとする、そして、一人でも多くの会員にロータリーが好きになるきっかけを与えることが大切ではないでしょうか。こうしてロータリーを知ることにより、ロータリーに情熱を燃やすようになり、意欲的なロータリアンになるものと思われまます。

本日がその機会の扉を開くことを祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

## 各クラブ会長による発表 テーマ「コロナ禍におけるクラブ運営について」

### 岐阜北ロータリークラブ 前田 吉彦 会長

皆様、こんにちは。GTMの貴重なお時間を頂きましてありがとうございます。岐阜北ロータリークラブの本年度会長の前田吉彦でございます。

当クラブはコロナの広がりによって、前年度3か月の例会休止を余儀なくされました。今年度はなんとか7月から例会を再開することができてほっとしております。例会場においては都ホテル岐阜長良川様のご協力を得て、従前の2倍の広さの会場になりました。例会中はソーシャルディスタンス、消毒、マスクの着用等の対応を採って、ウイルス感染拡大の防止を徹底しております。また、クラブの奉仕事業等

については、継続事業である小学生向けのバレーボール大会、福祉施設である若松学園への支援、献血等について、それぞれの関係機関のご意見を優先し、感染対策を万全に行った上で奉仕活動を予定しておりますが、どうしても縮小しての継続となる予定です。さらに、今後の状況や地域行政の方針に従い、中止もあり得るとの認識をしております。コロナの感染拡大による人の健康や命を脅かすようなことのないように慎重な判断をする用意もできております。現在も第2波のコロナの猛威によって社会に大きな打撃を受けており、今までの普通や常識が通じなくなっています。その渦中で社会全体が国を始めとして様々な支援を求めており、各種団体が支援や援助をしています。

ロータリーは奉仕の実践です。今、ロータリアンとして何をすべきなのかを考えていました。そのような中で、ロータリーが創設されたのはスペイン風邪の流行前と気づきました。となれば、先人のロータリアンはスペイン風邪の時にどんな行動を取ったのか興味があり、インターネットで検索してみました。「スペイン風邪」「ロータリー」で検索すると、MYROTARYの記事もヒットします。当時、ロータリー世界本部があったシカゴでは、新規感染者数が一日で1,200人以上増加した時期もあったそうです。ロータリアンが市民活動の最前線で行動し、政府や人びとに全力で奉仕したこと、職業奉仕をしたこと、多額の寄付をしたことなどが掲載されています。是非、皆様も検索されることをお勧めします。

ポール・ハリスの言葉にも「ロータリーが私たちにとって何を意味するにせよ、世界は、その活動成果によってロータリーを知るのです。」とあります。今こそ100年に一度の災害の中で、ロータリアンとして様々な行動しなければならない時期ではないかと考えます。

本年度のテーマでもある、機会の扉を開けていくことの決意を表明して、ご挨拶と代えさせていただきます。

